

縄文シティサミット 参加レポート

9月26日・27日、新潟県糸魚川市で「人々が集う縄文遺跡」をテーマに、第18回縄文シティサミットが開催されました。福島市からは市長とじょーもぴあ・遺跡の案内人17名が参加しました。参加者は記念対談やパネルディスカッション、各都市の遺跡ボランティアの皆さんとの懇親会などに参加しました。また、縄文時代のヒスイ製品の生産遺跡である史跡長者ヶ原遺跡や史跡寺地遺跡のほか、フォッサマグナムuseumなど糸魚川市ならではのヒスイ関連の施設を見学しました。なお、この縄文シティサミットは来年度は福島市で開催されます。

縄文時代にも、この日本列島のなかで頻繁な交流があったことは、宮畑遺跡の発掘調査で見つかったヒスイやアスファルト、黒曜石などが物語っています。案内ガイドをしていると「福島からは何を贈ったのですか?」とよく聞かれます。この質問は今の福島でも問われているのではないのでしょうか。来年の縄文シティサミットはもちろん、日々の活動の中でも、福島から何が発信できるのか、皆で考えていこうではありませんか。



長者ヶ原遺跡見学



縄文シティサミット会場

開園時間 9:00~17:00 (駐車場は8:30~17:30)

定休日

- ◆体験学習施設・露出展示棟▶火曜日/年末年始(12月29日~1月3日)
※火曜日が祝日の場合は、翌日以降の祝日にあたらぬ日
※福島市公立学校の春・夏・冬季休業中は毎日開館
- ◆休憩棟・炊事棟▶年末年始(12月29日~1月3日)
- ◆公園区域・駐車場・休憩棟内トイレ▶定休日なし

住所 〒960-8201 福島県福島市岡島字宮田78

電話 (024) 573-0015 FAX (024) 573-0016

体験学習施設 展示室観覧料

個人 一般200円/高校生以下100円

団体 一般140円/高校生以下 70円

※未就学児無料 ※団体は20名から



編集後記

今年8月の開園以来、じょーもぴあ宮畑には大勢の方々が来園し、体験学習施設「じょいもん」では勾玉づくりや土器づくりなど様々なイベントが開催され、楽しい夢がふくらむふれあいの場としてご利用いただいております。

遺跡の案内人の皆さんも4カ月間の活動を通して、ご意見や感想などおありがとうございます。今後そうした皆さんの活動の様子や声を取り上げて、わかりやすく親しみのある「宮畑だより」の紙面作りに活かしたいと思っています。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

じょーもぴあ宮畑 だより

第16号
平成27年12月

☆「じょーもぴあ」とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人
編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班

来園者が3万人を超えました!

じょーもぴあ宮畑では、屋外の復元展示や体験学習施設「じょいもん」の展示室の見学以外にも、さまざまなプログラムを準備しております。週末は日替わりで勾玉づくりや土器づくりなどの縄文ものの作り体験が楽しめます。また、天気の良い日は弓矢や火おこしの縄文体験も実施しています。もの作り講座やワークショップも毎月開催しており、さまざまな体験を楽しむことができます。

また、縄文時代や福島の歴史にかかわる講座も定期的を実施しており、11月には東部地区のフィールドワークを実施しました。

開園以来、3万人を超える来園者がじょーもぴあ宮畑で様々な体験をしています。ぜひ、ご来園いただき、縄文体験や講座を通して、縄文時代を身近に感じてはいかがでしょうか。



子供たちは全身を使って、じょーもぴあ宮畑を楽しんでいます



縄文土器づくりでは土器の野焼きもします



小さなお子さんからお年寄りまで楽しんでいる施設です



できる?できない?まずは挑戦してみましょう!

じょーもぴあ宮畑秋まつり



勾玉づくり

丸太ころがし競争

屋外展示ガイド

弓矢競技

柱(うまい棒)食い競争

縄文ウルトラクイズ

草むしりリニック

草むしりリニック表彰式

物産販売

9月27日にはじょーもぴあ宮畑秋まつりを開催しました。当日は天候にも恵まれ、2500人を超える市民に足を運んでいただきました。

勾玉づくり、縄文リニック・縄文ウルトラクイズ、丸太ころがし競争など、爽やかな秋風の中子供から大人までたくさんの人に楽しんでいただきました。秋まつりのもう一つの呼び物は30分でどれだけ草むしりができるかを競う「草むしりリニック」です。第3回となる今回は7チームが出場し、地元のもちずり地区老人クラブ連合会が優勝しました。

オープンカレッジ・シンポジウム



縄文人からの伝言

国家の胎動 縄文時代から卑弥呼の時代へ

史跡の保存と公開

じょーもぴあ遺跡の案内人主催のオープンカレッジは岡村道雄氏の『縄文人からの伝言』、紺野義行氏の『国家の胎動 縄文時代から卑弥呼の時代へ』、高藤義弘氏の『縄文時代から平安時代の家と調理・食器』の全3回を実施し、のべ180人の市民が参加しました。また、10月には『史跡の保存と公開』をテーマに開園記念シンポジウムを開催しました。参加者からは「地元の歴史についてもっと知りたくなりました」、「文化財の大切さを知りました」との声も聞かれ、いずれも好評でした。

縄文体験



体験を通して縄文時代を学べる火おこしや弓矢などの体験は大盛況で、多い日には150名を超える体験者がありました。

縄文ものづくり

縄文人みたいにうまくできたかな?



勾玉づくりや土器づくりなどの定番メニューだけではなく、縄文時代の技術を再現したり、縄文テイストを盛り込んだ様々なワークショップも行いました。

案内ガイド

縄文時代が身近になった!



じょーもぴあ・遺跡の案内では、じょーもぴあ宮畑の魅力や特徴をわかりやすく伝えるガイドを心掛けています。また、その活躍の場はじょーもぴあ宮畑にとどまらず、今年は東部地区のフィールドワークを主催し、地元の参加者からも「こんな素晴らしいところが身近にあると初めて知りました」と好評でした。

シリーズ展示案内 ①

じょーもぴあ宮畑の体験学習施設「じょいもん」には、宮畑遺跡の発掘調査で見つかった縄文土器や石器などを中心に、たくさんの資料が常設展示され、縄文時代の暮らしや文化がわかりやすく解説されています。

また、年3回実施される特別展では福島市内の発掘調査成果を中心に、福島市の歴史や文化を解説しています。

今年度は開館の8月8日から11月30日まで、「縄文土器から見る福島市の縄文時代」と題して第1回特別展を行いました。

福島市最古の土器に始まり、シンプルで均整の取れた縄文時代前期の土器、華麗で豪華な中期の土器、繊細で精緻な晩期の土器が一同に会しました。また、弥生時代を代表する大型の壺も合わせて展示を行い、弥生時代が始まるまでの一万年を超える縄文時代の歴史を俯瞰する展示となりました。



現在は縄文時代の石器に焦点をあて、第2回特別展「縄文人と石器〜切る・狩る・祀る〜」を12月6日より3月6日まで開催しています。